

世界連邦宣言
いま一つの世界を
自治体協新聞

発行
世界連邦宣言自治体
全国協議会
(事務局=京都府綾部市)
〒623-8501綾部市若竹町8-1
TEL(0773)42-3280
FAX(0773)42-4905

令和5年度総会を開催

ハイブリッドで実施

世界連邦宣言自治体全国協議会(会長 山崎善也 京都府綾部市長)の令和5年度総会が令和5年7月20日、東京都



総会であいさつをする山崎会長

港区で開催されました。本年度もオンラインとオンラインのハイブリッド方式で実施。世界連邦推進日本協議会の大橋夫会長をはじめ、27自治体49人が参加しました。

冒頭では、山崎会長が「ロシアのウクライナ侵攻による残酷な暴力行為により多くの人が命を落とす中、核兵器の脅威による負の連鎖も広がっている。『微力』であっても『無力』ではないという信念のもと、草の根運動である中東和平プロジェクトをはじめ、世界平和の実現に向けて一歩一歩進んでいく



亀岡市での中東和平プロジェクト

ことが大切である」とあいさつ。また、「世界情勢が混沌とする時代だからこそ、世界連邦運動の重要性を再認識し、その実現の必要性を訴えるときだ」と呼び掛けました。

議事では、事務局より令和4年度の事業・収支決算や令和5年度の事業計画・収支予算を報告したほか、役員の変更を実施。議事は全て原案どおり承認・決定しました。

総会終了後には、京都府亀岡市の担当者が、昨年4月に行われた「中東和平プロジェクト in 亀岡」について成果を発表。4年ぶりとなる今回は、イスラエル、パレスチナ

スチナ双方から子どもたちを日本に招いて相互の信頼醸成を目指す取組。これまでに、13回にわたり全国で開催されています。

また、世界連邦日本国会委

イスラエル・パレスチナへ 戦闘停止を呼びかけ

令和5年10月、イスラエルとパレスチナ自治区ガザを支配するイスラム組織ハマスによる大規模戦闘により、民間人を含む多数の犠牲者が発生。これを受け、当協議会では、イスラエル大使館と駐日パレスチナ常駐総代表部宛

員会の塩浜修事務局長が「今後の世界連邦運動のあり方」と題して講演。世界連邦運動について、例示を交えながら、諦めない心の大切さや心構えについて持論を述べました。

に停戦を呼び掛ける書簡を送りました。

書簡では「これ以上の犠牲者を出さないために即刻戦闘が停止されることを望んでいます」とし、「一人一人の生命を大切に、武力によらず、対話による平和的な解決を目指し、それぞれの立場で努力されることを願ってやみません」と訴えました。

ご協力ありがとうございました 自治体職員1人100円募金

当協議会が昭和61年から毎年実施している「世界平和と難民救済のための自治体1人100円募金」。3月18日時点で、全国の145自治体から計423万8,040円に上る善意をお寄せいただきました。

ご協力いただきました自治体の皆様、また事務をお執りくださった担当の方に厚く感謝申し上げます。

本年度お預かりした募金は、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)やUNICEF(国連児童基金)等へ寄託します。難民や病気・貧困に苦しむ子どもたちの救済などに役立てられるほか、世界連邦・平和推進事業などの取組に活用されます。

引き続き、本事業へのご理解ご協力をお願いします。

次代を担う子どもたち

～世界連邦推進ポスター・作文コンクール～

世界連邦運動協会（大橋光夫会長）主催、当協議会と文部科学省後援の「第52回世界連邦推進全国小・中学生ポスター・作文コンクール」の表彰式が3月3日にJICA地球ひろば（東京都新宿区）で開催されました。

同コンクールは、次代を担う小・中学生を対象として、平和の尊さや世界連邦についての理解を深めるとともに、平和の実現を目指すようになることを目的として、昭和47年から実施。全国からポスターの部に61校895点、作文の部に42校450点の応募があり、ポスターの部で17点、作文の部で17点が入選しました。

表彰式には、全国から多数の入選者が出席。大橋会長から、賞状や副賞の盾などを授与されました。

入選作品は、同広場のギャラリースペースに展示され、熱心に作文を読み込む人の姿なども見られました。



ポスターの部

文部科学大臣賞受賞作品
「ともそう 平和の明かり」

海津市立平田中学校2年

石原佳奈

作文の部

文部科学大臣賞受賞作品

「原爆と平和」

岡山県立岡山大安寺中等教育学校1年

出井美紀

私は小学校の修学旅行で長崎原爆資料館に行きました。そこでは、原爆によって灰になった物干し竿や被爆した人の体の写真、崩れた建物の模型などの展示を見た。さらに「ファットマン」という実物と同じ大きさの原爆の模型もあった。社会の授業では原爆が落とされたという説明で終わってしまっていた悲惨な事実を実際に見たことで、こんなことが起こってしまう戦争の恐ろしさを改めて感じた。

また、平和祈念像にみんまで祈りを捧げた。そこで平和祈念像のポーズの意味を知った。天を指している右手が原爆の脅威を、水平に伸びている左手が平和を、閉じているまぶたが原爆の犠牲者の冥福を祈っているようだ。この像には、多くの人の二度とこんなことが起こらないようにという願いが込められているのだろうと感じた。

また、最近母に勧められて新聞で原爆とバビーについての記事を読んだ。バビーが原爆を開発した物理学者のオッペンハイマーという人の肩に乗り、爆発を背景に笑顔を見せているなどの加工画像と、それに対して好意的なアメリカのアカウントのコメントが問題視されているというものだ。なかでも一九五〇年代のアメリカでは核実験がショーとして楽しまれたり、観光とされていたりしたという内容の一文が衝撃的だった。

私のなかでの原爆のイメージは恐ろしいもの、一瞬にしていろんなものを壊したり傷つけたりするものだ。しかしそれが娯楽とされていたことにとっても驚いた。このような認識の違いで日本は唯一の被爆国になってしまったのだろうか

と思う。記事には核なき世界を呼び掛けているのにもかかわらず、アメリカ軍の核の傘で守られ、核兵器禁止条約に署名していないのはどうなのかとも書かれてあった。私は日本が核の傘で守られていることは知っていたが、核兵器禁止条約に署名していないことは知らなかったため驚いた。でも、確かに記事で述べられていることも一理あるなと思った。

この問題を解決するには日本と核のあり方を見直すべきだ。世界では私たちと同年代の子供でも被害を受けている国もあり、世界平和とはいえない状況だが、そのなかで日本は戦争がなく平和だろう。しかし、日本が核兵器禁止条約に署名していないということは核があるのは仕方がないという考え方になってしまっているのではないかと思ひ、不安になった。原爆だけでなく、北朝鮮のミサイル問題などから国を守ることは私が考えるよりも大変なことなのだろう。だがそこに核は必要なのではないだろうか。核などの兵器を使わずに世界全体が平和になるためにはどうすれば良いのだろうか。

今私ができることは二つあると考えている。一つ目は平和についてしっかり知り、考えることだ。八月六日と九日の広島と長崎の平和祈念式典などを機に平和について考えるようにしていきたい。二つ目は原爆が落とされたことなど戦争の恐ろしさを忘れないことだ。日本では私を含めて戦争に対してかなりマイナスなイメージを抱いている人が多いと思う。被爆当時の人が高齢になっており、戦争の恐ろしさを実際に感じた人が少なくなっているが、二度と戦争などをくり返さないという意識を忘れないようにすることが、今後日本のように被害を受けてしまう人がいなくなったり、戦争をする国がなくなったりする「平和」につながっていくと思ふ。このように、一人ひとりが少しずつ身近なところからでも平和に対する意識を持ち、それを日頃忘れないようにして伝えていくことが世界平和につながっていくはずだ。